

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100899		
法人名	社会福祉法人 吉祥		
事業所名	グループホーム 吉祥(1階)		
所在地	高松市春日町1336番地1		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 15 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は静かな閑静な住宅街にあり、各居室は中庭を囲むように配置しており、日当たりも良く四季折々の季節を感じていただけます。
その人らしさを大切にアットホームで笑顔溢れる安らぎの場所を提供します。日常生活全般において声掛けや介助が必要な方、車椅子の方も居られますが、その人の能力に応じた役割を見つけ、個別支援を心がけています。また、一人一人の生活リズムやペースを大切に、健やかに安心して暮らせるよう支援しています。
ご家族様には、毎月施設での生活の状況を写真を添えてお伝えしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3790100899-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 1 月 25 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気の中で、利用者が笑顔で過ごし、その人の特性を活かした個別支援を心掛けている。明るい日差しが差し込む暖かいホールで、リハビリ体操を行っていた利用者の表情は穏やかで、ほのかに汗をにじませ、職員の優しい言葉がけに笑顔で応えている姿が見られた。その利用者の笑顔は、職員が利用者に寄り添ったケアに努めているから家族の安心に繋がり、職員のケアに対する励みがそこから生まれている。職員は利用者一人ひとりとの触れ合いを大切に、日常のさりげない会話から、利用者の思いをくみ取り、利用者のささやかな変化も伝えるために、家族と密に連絡を取っている利用者が体調不良の際に、感染対策を施しながら連絡だけでなく、家族と実際に会える面会では、少しでも時間が長く取れるように作り、喜びとその反面の不安を取り除ける様に配慮しているのも、”利用者や家族の幸せを感じられる空間の創造”という理念に基づくものであろう。こうした”職員だけでなく家族と一体となった利用者の穏やかで落ち着いた生活を願う姿勢”は、管理者の目指しているグループホームの重要な指針の1つであり、今後も伝え続けていくべきだと懇願していた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	吉祥の理念にある利用者、家族、そして多くの人が幸せを感じられるよう「目配り、気配り、心配り、思いやり」をモットーにサービスを実践している。年始めに年間目標、取り組みをたて上半期、下半期には反省、新たな実現に向けての取り組みを掲げ目標実現に向けて日々取り組んでいる。	理念はホール、事務所に掲示してあり、玄関には理念が記入された“吉祥便り”を貼っている。月1回の部署会議で、理念について振り返っている。理念に基づいた年間目標を決め、“利用者だけでなく家族が幸せを感じられる空間の創造”に向けて取り組んでいる。新入職員には研修時に、管理者が理念について説明し、理解を促している。	理念を深めるために更に工夫をしてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の障害者施設の方から野菜を頂いたり外出した際は、こども園や近隣の人と挨拶を交わしたり、店舗に買い物へ出かけたり交流する機会を設けている。秋祭りで獅子舞の訪問や障害者施設とこども園のバザーへ出向きたくさんの方との交流機会が図れた。自治会の清掃にも積極的に参加している。地域の方に必要時は駐車場を貸し出している。	近隣のA型事業所から野菜を頂いたり、散歩の際に、事業所内のパン屋で利用者は買い物をしていて、こども園との交流が再開され、子供と接することで、利用者は満面の笑顔になっている。地域の秋祭りも再開され、獅子舞が訪れ、楽しい時間が持てた。感染症の状況を考慮しながら、少しずつ交流する機会を増やすように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年2回発行の吉祥新聞を事業所や地域の方に配り取り組みや活動状況を発信している。市役所にもパンフレットを置いてもらい地域の人達にも知ってもらう機会を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で書面会議になっているが2か月に1回取り組みや運営状況を民生委員や自治会長等の運営推進委員に直接書面を持参し、意見交換や交流の機会を図っている。R5.8月からは書面ではなくグループホームにて開催し意見交換や情報の共有が図れ家族、利用者、自治会長、民生委員、市の職員と顔を合わせた関係性が築けている。	5類になり、感染状況に配慮しながら、基本的には対面で行っている。介護保険課、介護副主任、民生委員、家族代表、利用者代表、自治会長、管理者が参加している。運営状況、行事報告、研修予定報告などについて話し合った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険法に基づく運営指導では指摘頂いた事項は職員に周知し改善に努めている。書類作成時や不明な点は連絡を密にとり助言を頂いている。運営推進会議にも参加していただき、活動状況や運営状況を報告することで顔を合わせた関係性を築けている。	管理者と計画作成担当者が窓口となっている。加算や、計画作成等で分からないことがあれば、直接出向いて相談し、アドバイスをもらっている。実地指導があった際に、改善事項等について細やかにアドバイスしてくれた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回施設内研修にて身体拘束について正しい理解に努めている。毎月委員会を合同で開催し、各事業所の現状を把握し、身体拘束の有無を再確認している。玄関の施錠は夜間のみで日中は解放している。	毎月の身体拘束委員会では、事故対策、ヒヤリハット、服薬介助などについて話し合っている。委員会での検討事項は、全体会議で職員に報告し情報共有している。新聞やネットから身体拘束に関する情報を得た時は、全体で話し合いを行い、気をつけてケアに臨んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段からの言葉使いやケアの対応が虐待になっていないか施設全体で確認しあい、虐待の防止に努めている。権利擁護やスピーチロックについて勉強会を行い、日頃のケアの振り返りを行った。スタッフ間もお互いに注意しながら気になる点があれば、改善や情報の共有に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践研修やリーダー研修に積極的に参加し、日常生活支援事業や成年後見人制度についても勉強の機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は丁寧な説明に努め、理解や納得して頂いたうえで署名、捺印をして頂いている。法改定の際は、書面または口頭にて説明し理解を頂いている。退所時は事前に分かりやすく説明を行い、必要書類や確認事項は書面に残している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの意見や要望はその都度対応に努め、施設でできる対応については積極的に取り入れるようにしている。入居時に苦情相談窓口の説明を行っている。事業所玄関には意見箱を設け、様々な意見も取り入れるようにしている。家族様が遠方の方には、電話にて近況報告を行い、要望や意見を確認している。	家族には、利用者の様子をこまめに連絡するようになり、家族に安心してもらえるように努めている。利用者の体調不調時には、感染対策をした上で面会時間を設け、家族と会って少しでも安心できるよう配慮している。家族と施設が一体となって、利用者を守っていけるような体制作りを目指し、家族との連携を大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1人1人寄り添ったケアに努め職員からでた意見や提案は取り入れるように努めている。月1回の部署会議にて日頃困っていることや提案、改善等を行い話し合いの場を設けている。全体の場でなかなか意見が出難い際は、事前に個々から意見を回収し会議の場でまとめる様にしている。	部署会議で、職員の意見を聞くようにしている。日頃から、管理者に職員が何でも相談できる関係ができています。管理者から法人(施設長)に相談する事項についても、可能な限り即座に対応してくれる。手すりの補強、柵のカバー設置等、利用者のために職員から意見があり対処した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の全体会議で他部署の職員と交流する機会を持つことで意見交換が出来ている。年2回考課表にて、各自自己評価、自己アピールを記入してもらい勤務実績等を評価している。年2回代表者は、個別に面談し話す機会を設けている。希望休や有休休暇は可能な限り取得できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に認知症の研修やスキルアップを図れる研修への参加の機会を設けている。介護技術の向上にも努めている。外部の研修に参加した際は施設全体で報告し、情報を共有するようにしている。個々のスキルアップに向けて資格取得や研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で他同業者との交流はほとんどないが、同法人との交流はあり、意見交換や情報交換の場となっている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談やアセスメントの際にしっかり本人、家族の要望を聞きサービスの反映や実践に努めている。知り得た情報や関わる上で良かった点や改善点等があれば早急に職員間で情報共有を行い本人の希望に添った生活が送れるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを家族にも行い、今困っていることや要望等を傾聴し、家族の意向も取り入れながら施設での生活に早く馴染めるように職員間でも情報を共有している。面会時は、家族様に利用中の様子の報告を行い、要望等に耳を傾け意見等は改善を図るように意識している。面会が出来ない際は、電話連絡や必要物品を持参された際に直接生活の様子を見ていただいたり、意見や要望を確認したりするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用に至った経緯や背景を把握し、本人に必要な援助は何かを考え、サービスを提供している。現在困っている事や要望等を聞き出し実践できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で行えることは一緒に行い、利用者が培ってきた生活の知恵や工夫を生活の中で取り入れ実践している。食器洗いや洗濯干し、畳み等のできる事は職員と一緒にやっている。それぞれ役割を持ちお互いが一人では出来難い所はフォローしながら困ったことがあれば支え合って生活が送れるようにしている。感謝に気持ちは小まめに伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に電話や書面等で利用状況を報告し現在の状況を確認してもらっている。面会時は、近況状況の報告を行い家族ともしっかりコミュニケーションを図るようにしている。病院以外の家族との外出は中止していたが、受診の際は家族にも協力を仰ぎ一緒に受診していただく等配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話、手紙等で交流が図れるように努めている。急な来訪時も可能であれば臨機応変な対応を図っている。思い出のアルバムや家族の写真等を見て回想法を活用し支援に努めている。	面会は予約制、少人数ではあるが対面で行っている。利用者が安心できるように、家族と直接会えるように努めている。遠方で面会に来れない家族には、電話で利用者と話をしている。法事等、家族との外出は、感染対策をしたうえで可能としている。なじみの近隣のスーパーに、職員と一緒に買い物に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の情報を職員間で共有し、席の配置換えや必要であれば居室変更をして一人一人が安心して生活ができる場を意識して対応が図れている。入居者同士の関係が良好に保てるように、職員が間に入りサポートしている。利用者の訴えに耳を傾け傾聴に努めている。難聴の方には、筆談やジェスチャーを行いコミュニケーションが図れるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への入所の際は事前に情報提供に努めている。併設した施設へ移行した際は、その後の経過を確認したり面会をしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で情報を共有し、これまでの生活歴、趣味、嗜好等を本人、家族から聞き取り自宅での生活に近づけるよう努力している。本人や家族の思いや要望は計画書に反映できるようにしている。本人が得意な事や好きな音楽や趣味等があれば生活に取り入れるようにしている。	発語が難しい方には、目を見て手に触れて優しく言葉がけをして、話されるのを待つ工夫をしている。足浴などしている時、会話が弾み、「ありがとう」や「気持ちいいなあ」の言葉があり職員の励みとなっている。利用者の好きな歌手のDVDを流して一緒に歌を口ずさんだり、踊りが得意な利用者には、浴衣を着て踊りを披露してもらった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりや会話の中から本人の要望、家族からの聞き取りを含め把握に努めている。入居に至った経緯や生活歴等の知り得た情報は職員間で共有し馴染みの暮らしが継続して送れるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースに合わせたその人の行動パターンや情報を共有し、その人に合った声掛けや支援に努めている。一人で出来なくても職員と一緒に洗いや洗濯等を行う事でやりがいを感じてもらい意欲向上に努めている。できないと決めつけるのではなく出来ることに注目してサポートを意識している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に情報を収集した内容を職員間で共有し、安心して生活が送れるよう介護計画を作成している。本人や家族の希望や要望は計画書に取り入れ個々に応じた計画書の作成を心がけている。	入所後、何もなければ半年でモニタリングして見直しを行い、その後も半年ごとに意見交換している。個別支援を大切に考え、その人にあった計画になるように配慮し作成している。家族からの”楽しく過ごしてほしい”、”趣味などを活かしてほしい”との要望や、医師、担当職員の意見を参考に、計画作成担当者を中心に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の生活状況を介護記録に記載している。変更事項や申し送り事項はその都度申し送りノートに記載し、全職員が情報を把握し実践に努め、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望は出来る範囲柔軟な対応に努めている。食事量が少ない際は、好きなパンを買いに買い物へ一緒に出かけたり、外へ気分転換に散歩に出掛けたりとニーズに合わせて対応を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ではあるが、近隣との関りや屋外への外出支援を図りながら毎月楽しめるような計画を立てている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を優先し希望者はかかりつけ医に変更している。必要であれば訪問歯科で往診も可能で、適切な治療が受けられるよう支援している。必要時には家族にも同行してもらい付き添いを行ってもらっている。	以前からのかかりつけ医と、協力医とは入所時に選択できるが、ほとんどの方が協力医に転医している。協力医は2人いて、其々月2回、月1回の訪問診療があり、24時間対応してくれる。歯科は、毎週、衛生士が来所、3か月に1回の医師の訪問診療がある。他科は基本職員が付き添いが、かかりつけがある利用者は家族が付き添っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い体調の把握に努めている。体調の変化がみられる際は職場内の看護職やかかりつけ医の看護職に相談、連携に努め適切な受診や支援が図れるように努めている。皮膚状態や体調の変化がみられる際は記録に残し報告するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、早急な情報提供を行っている。また入院中は病院関係者と連携を図り状態把握に努め、退院後の受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に延命治療の有無は確認しているが、重度化した場合は経過を踏まえ本人、家族の意向を再度確認している。終末期の対応について主治医や家族と意向を確認し、施設でできる事できない事の十分な説明をし、関係機関と連携を密にし本人にとって最善の方法を協議した。	看取りはしていない。入所時、家族に重度化した場合・終末期についての意向確認はしているが、重度化した場合には、“看取り介護に対する指針”により再度確認している。重度化に対してのケアのマニュアルがあり、職員の精神的負担軽減を図る体制ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に全体会議にて事故発生、緊急時の対応について勉強会を行っている。急変時の心肺蘇生も定期的に勉強会にて訓練している。応急処置の対応マニュアルは、ファイルにし慌てずに対応ができるようにしている。会議にてバイタルチェック方法については職員同士で実践して訓練を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中、夜間を想定した避難訓練を行っている。消火器を使用し初期消火の訓練も実施している。運営推進会議等でAEDを設置している旨や災害時の協力はお願いしている。災害時のフローチャートを作成し、施設内の見やすい場所に掲示している。	ハザードマップ、緊急連絡網は事務所にある。年2回利用者参加で、昼夜想定で火災訓練、水害訓練を行っている。災害時は避難場所として、施設の2階に垂直避難する。備蓄は水、衛生品、お粥やおにぎりのレトルト食品を2階にローリングストックしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重した関りや声掛けを心がけている。一人一人の性格やこれまでの暮らしを理解しその方に合った声掛けや対応を行っている。利用者同士でトラブルにならないよう職員が間に入り支援している。	呼称は基本は苗字にさん付け。反応が良い呼び名で、尊厳に注意して呼ぶこともある。排泄失敗時には、さりげなく語り掛け、「衣装を変えませんか」など、言葉掛けを工夫している。排泄時は、必ずドアを閉める様子を気をつけたり、申し送りの際に、本人に分からない様にプライバシーに配慮して行ったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に寄り添い、自己決定できるように支援している。レクリエーションでは、利用者全員の参加を無理強いはせず、本人様がしたい活動や意向を確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間にとらわれず、利用者に合わせた入浴や就寝時間で過ごしてもらっている。「外に行きたい。」「買い物に行きたい。」等の希望があれば希望に沿った対応を図るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい生活が送れるよう本人の希望に沿った身だしなみやおしゃれができるよう配慮している。普段の衣服や外に出かける際はどの服を着ようかと一緒に選ぶ事もある。必要な化粧品は一緒に買い物に出かけた際に選んだり家族に必要な物品をお願いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方は、配膳、下膳、片付け等を一緒に手伝ってもらっている。おやつ作りでは利用者と一緒に準備、作業も行い楽しみながら行うことができている。利用者が食べたい物や好みの物を一緒に考えて作るようにしている。	食事は外注だが、行事食がメニューに組み込まれており、お寿司が好評。利用者の嗜好調査をして、要望のあったお好み焼きを提供した。誕生日にはケーキを手作りしている。毎週日曜日には、どら焼きや、サツマイモ焼き等、手作りおやつがあり、楽しみの一つとなっている。季節の良い時期には、中庭でお茶会を楽しんでいる。	栄養士との連携を深めて、更に工夫されることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士がたてたバランスの良いメニューとなっている。一人一人に合わせた食事量や嗜好、飲み物の温度にも配慮しながら提供している。水分摂取量が少ない方は本人の好む飲み物を持参してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、誘導を行っている。自分では不十分な所は介助している。必要な方は定期的に歯科往診にて治療や口腔内清掃を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けや誘導を行い、その人のパターンを把握しトイレでの排泄を促している。定期的な排泄ケアの見直し、必要な方は簡易トイレを使用している。排泄用品の使用頻度も意識しながら排泄ケアの見直しや検討を図っている。	利用者に合わせた声掛けをして、トイレで排泄できるように誘導し、気持ちよく過ごして頂けるようにしている。排泄用品の使用にも、家族に負担がかからないように配慮している。入居時おむつだった利用者が、薬の調節や言葉がけにより、自立してトイレに行けるようになった。嫌がる人には時間や言葉を変える工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お腹に良い飲食物や好む飲み物を提供したり、歩く機会を作ったり自然排便が促せるように個々に応じた対応を図っている。それでも排便が見られない際は主治医共相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や希望等により曜日や時間を変更して臨機応変に対応している。無理強いせず、その日の入浴が難しい際は曜日や入浴形態を変更をしている。	入浴は週2回提供している。ゆず湯や入浴剤を入れて、気持ちよく入浴できるようにしている。入浴を嫌がる利用者には、時間をずらしたり、職員を変えたりして工夫している。同性介助に対応している。30分位、ゆったり時間をかけ、寛いで入浴して頂けるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを把握し、眠くなるまではホールで一緒に過ごしたりしている。眠れない際はホールで職員と一緒に寄り添って過ごすなど不安なく安心して過ごせるよう配慮している。その方の体調に合わせて食後は横になったり個々に応じた対応を図っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は飲み込まれるまで確認している。薬の変更事項等があれば連絡ノートに記載し、全職員に情報の共有を図っている。日頃の症状の変化に気づき、日頃から職場内の看護師や介護職員と情報を共有し分からないことは主治医または関係機関に確認するようにしている。 処方箋は、各カルテに綴じすぐに確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族との日頃の会話の中から、本人のしたい事、好きだった事を探り、日々の生活の中で楽しみごとができるよう支援している。家事が得意だった方は率先してテーブル拭きや洗い物を日課の様に取り組まれている。毎回感謝の気持ちを伝える事で意欲的に生活が送れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか個々の希望にそった外出支援は出来ないが、季節を感じられる外出支援や散歩に出かけ気分転換や買い物支援ができるようにしている。なるべく本人や家族の思いを聞き、できる範囲支援している。	近隣のA型事業所にある喫茶店や、パン屋に買い物に行き、気分転換が出来ている。施設内の中庭には、桜やもみじの木があり、四季の移り変わりを感じることができる。近隣の紅葉や花見の名所にドライブに行った。洗濯物を外に干してくれる利用者がいて、日課となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理ができる方はいないが、少額のお金を持ってもらい、近くの喫茶店や嗜好品等を買物に行った際には本人から支払いをしてもらうように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は施設の電話や携帯を使い、会話の機会を設けている。姉妹や友人から電話があった際も本人に取り次ぎ会話を楽しんでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた壁画や製作を作成し、季節感を取り入れた飾りつけをしている。毎日清掃し、いつでも気持ちよく過ごせるように配慮している。	利用者と一緒に作った季節を感じる作品が、壁面に飾られている。書初めの作品や、節分に向けた鬼の塗り絵が飾られていた。DVDを使ってリハビリ体操をしたり、合唱、脳トレ、ゲームなどをして、日中は、ホールでほとんどの利用者が過ごしている。中庭の草取りや、花壇の水やりを利用者が職員と一緒にしている。お昼寝や洗濯たみをする畳コーナーが、ホール内にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う利用者同士がテーブルを囲み会話したり、ソファーや畳のコーナーで過ごしたり思い思い自由に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や好みの物を家族様に依頼し、必要に応じて居室内の配置換えを行っている。入居後新たに必要な物は家族に持参を依頼し、居心地よく過ごせるように支援している。家族様が持参された写真や置物を飾る等本人様が安心して過ごせるように配慮している。	備え付けはベッド、エアコン、換気扇、洗面所、タンス、机、カーテン、照明。テレビを見て寛いだり、仏壇に毎朝、手をあわせて家族に思いを馳せている利用者がある。職員が作った誕生日カードを飾ったり、家族との写真を壁に飾っている。職員が毎朝清掃し、シーツ交換時には利用者が手伝ってくれる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレを迷うことのない様に目印や掲示をして対応している。自分でできる方は、食器洗いや洗濯たみ、シーツ交換等の出来るところをお手伝いしてもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100899		
法人名	社会福祉法人 吉祥		
事業所名	グループホーム 吉祥(2階)		
所在地	高松市春日町1336番地1		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 15 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は静かな閑静な住宅街にあり、各居室は中庭を囲むように配置しており、日当たりも良く四季折々の季節を感じていただけます。
その人らしさを大切にアットホームで笑顔溢れる安らぎの場所を提供します。日常生活全般において声掛けや介助が必要な方、車椅子の方も居られますが、その人の能力に応じた役割を見つけ、個別支援を心がけています。また、一人一人の生活リズムやペースを大切に、健やかに安心して暮らせるよう支援しています。
ご家族様には、毎月施設での生活の状況を写真を添えてお伝えしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3790100899-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 1 月 25 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気の中で、利用者が笑顔で過ごし、その人の特性を活かした個別支援を心掛けている。明るい日差しが差し込む暖かいホールで、リハビリ体操を行っていた利用者の表情は穏やかで、ほのかに汗をにじませ、職員の優しい言葉がけに笑顔で応えている姿が見られた。その利用者の笑顔は、職員が利用者に寄り添ったケアに努めているから家族の安心に繋がり、職員のケアに対する励みがそこから生まれている。職員は利用者一人ひとりとの触れ合いを大切に、日常のさりげない会話から、利用者の思いをくみ取り、利用者のささやかな変化も伝えるために、家族と密に連絡を取っている利用者が体調不良の際に、感染対策を施しながら連絡だけでなく、家族と実際に会える面会では、少しでも時間が長く取れるように作り、喜びとその反面の不安を取り除ける様に配慮しているのも、”利用者や家族の幸せを感じられる空間の創造”という理念に基づくものであろう。こうした”職員だけでなく家族と一体となった利用者の穏やかで落ち着いた生活を願う姿勢”は、管理者の目指しているグループホームの重要な指針の1つであり、今後も伝え続けていくべきだと懇願していた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	吉祥の理念にある利用者、家族、そして多くの人が幸せを感じられるよう「目配り、気配り、心配り、思いやり」をモットーにサービスを実践している。年始めに年間目標、取り組みをたて上半期、下半期には反省、新たな実現に向けての取り組みを掲げ目標実現に向けて日々取り組んでいる。	理念はホール、事務所に掲示しており、玄関には理念が記入された“吉祥便り”を貼っている。月1回の部署会議で、理念について振り返っている。理念に基づいた年間目標を決め、“利用者だけでなく家族が幸せを感じられる空間の創造”に向けて取り組んでいる。新入職員には研修時に、管理者が理念について説明し、理解を促している。	理念を深めるために更に工夫をしてはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の障害者施設の方から野菜を頂いたり外出した際は、こども園や近隣の人と挨拶を交わしたり、店舗に買い物へ出かけたり交流する機会を設けている。秋祭りで獅子舞の訪問や障害者施設とこども園のバザーへ出向きたくさんの地元の方との交流機会が図れた。自治会の清掃にも積極的に参加している。地域の方に必要時は駐車場を貸し出している。	近隣のA型事業所から野菜を頂いたり、散歩の際に、事業所内のパン屋で利用者は買い物をしていて、こども園との交流が再開され、子供と接することで、利用者は満面の笑顔になっている。地域の秋祭りも再開され、獅子舞が訪れ、楽しい時間が持てた。感染症の状況を考慮しながら、少しずつ交流する機会を増やすように努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年2回発行の吉祥新聞を事業所や地域の方に配り取り組みや活動状況を発信している。市役所にもパンフレットを置いてもらい地域の人達にも知ってもらう機会を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で書面会議になっているが2か月に1回取り組みや運営状況を民生委員や自治会長等の運営推進委員に直接書面を持参し、意見交換や交流の機会を図っている。R5.8月からは書面ではなくグループホームにて開催し意見交換や情報の共有が図れ家族、利用者、自治会長、民生委員、市の職員と顔を合わせた関係性が築けている。	5類になり、感染状況に配慮しながら、基本的には対面で行っている。介護保険課、介護副主任、民生委員、家族代表、利用者代表、自治会長、管理者が参加している。運営状況、行事報告、研修予定報告などについて話し合った。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険法に基づく運営指導では指摘頂いた事項は職員に周知改善に努めている。書類作成時や不明な点は連絡を密にとり助言を頂いている。運営推進会議にも参加していただき、活動状況や運営状況を報告することで顔を合わせた関係性を築けている。	管理者と計画作成担当者が窓口となっている。加算や、計画作成等で分からないことがあれば、直接出向いて相談し、アドバイスをもらっている。実地指導があった際に、改善事項等について細やかにアドバイスしてくれた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回施設内研修にて身体拘束について正しい理解に努めている。毎月委員会を合同で開催し、各事業所の現状を把握し、身体拘束の有無を再確認している。玄関の施錠は夜間のみで日中は解放している。	毎月の身体拘束委員会では、事故対策、ヒヤリハット、服薬介助などについて話し合っている。委員会での検討事項は、全体会議で職員に報告し情報共有している。新聞やネットから身体拘束に関する情報を得た時は、全体で話し合いを行い、気をつけてケアに臨んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段からの言葉使いやケアの対応が虐待になっていないか施設全体で確認しあい、虐待の防止に努めている。権利擁護やスピーチロックについて勉強会を行い、日頃のケアの振り返りを行った。スタッフ間もお互いに注意しながら気になる点があれば、改善や情報の共有に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症実践研修やリーダー研修に積極的に参加し、日常生活支援事業や成年後見人制度についても勉強の機会を設けている。行政や弁護士と連携し必要時対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は丁寧な説明に努め、理解や納得して頂いたうえで署名、捺印をして頂いている。法改定の際は、書面または口頭にて説明し理解を頂いている。退所時は事前に分かりやすく説明を行い、必要書類や確認事項は書面に残している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族からの意見や要望はその都度対応に努め、施設でできる対応については積極的に取り入れるようにしている。入居時に苦情相談窓口の説明を行っている。事業所玄関には意見箱を設け、様々な意見も取り入れるようにしている。家族様が遠方の方には、電話にて近況報告を行い、要望や意見を確認している。	家族には、利用者の様子をこまめに連絡するようになり、家族に安心してもらえるように努めている。利用者の体調不調時には、感染対策をした上で面会時間を設け、家族と会って少しでも安心できるよう配慮している。家族と施設が一体となって、利用者を守っていけるような体制作りを目指し、家族との連携を大切にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1人1人寄り添ったケアに努め職員からでた意見や提案は取り入れるように努めている。月1回の部署会議にて日頃困っていることや提案、改善等を行い話し合いの場を設けている。全体の場でなかなか意見が出難い際は、事前に個々から意見を回収し会議の場でまとめる様にしている。	部署会議で、職員の意見を聞くようにしている。日頃から、管理者に職員が何でも相談できる関係ができています。管理者から法人(施設長)に相談する事項についても、可能な限り即座に対応してくれる。手すりの補強、柵のカバー設置等、利用者のために職員から意見があり対処した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回の全体会議で他部署の職員と交流する機会を持つことで意見交換が出来ている。年2回考課表にて、各自自己評価、自己アピールを記入してもらい勤務実績等を評価している。年2回代表者は、個別に面談し話す機会を設けている。希望休や有休休暇は可能な限り取得できるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に認知症の研修やスキルアップを図れる研修への参加の機会を設けている。介護技術の向上にも努めている。外部の研修に参加した際は施設全体で報告し、情報を共有するようにしている。個々のスキルアップに向けて資格取得や研修への参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で他同業者との交流はほとんどないが、同法人との交流はあり、意見交換や情報交換の場となっている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談やアセスメントの際にしっかり本人、家族の要望を聞きサービスの反映や実践に努めている。知り得た情報や関わる上で良かった点や改善点等があれば早急に職員間で情報共有を行い本人の希望に添った生活が送れるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメントを家族にも行い、今困っていることや要望等を傾聴し、家族の意向も取り入れながら施設での生活に早く馴染めるように職員間でも情報を共有している。面会時は、家族様に利用中の様子の報告を行い、要望等に耳を傾け意見等は改善を図るように意識している。面会が出来ない際は、電話連絡や必要物品を持参された際に直接生活の様子を見ていただいたり、意見や要望を確認したりするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用に至った経緯や背景を把握し、本人に必要な援助は何かを考え、サービスを提供している。現在困っている事や要望等を聞き出し実践できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分でできることは一緒に行い、利用者が培ってきた生活の知恵や工夫を生活の中で取り入れ実践している。 言葉で伝えにくい利用者様も皆の輪に入り、普段のさりげない発語や表情、仕草等で変化を見逃さずコミュニケーションを図るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に電話や書面等で利用状況を報告し現在の状況を確認してもらっている。利用者、家族とが手紙でやり取りもできるように郵便での個々に応じた支援もしている。必要に応じて来訪してもらい、家族の支援をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や電話、手紙等で交流が図れるように努めている。急な来訪時も可能であれば臨機応変な対応を図っている。思い出のアルバムや家族の写真等を見て回想法を活用し支援に努めている。	面会は予約制、少人数ではあるが対面で行っている。利用者が安心できるように、家族と直接会えるように努めている。遠方で面会に来れない家族には、電話で利用者と話をして頂いている。法事等、家族との外出は、感染対策をしたうえで可能としている。なじみの近隣のスーパーに、職員と一緒に買い物に行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の情報を職員間で共有し、席の配置換えや必要であれば居室変更をして一人一人が安心して生活ができる場を意識して対応が図れている。入居者同士の関係が良好に保てるように、職員が間に入りサポートしている。利用者の訴えに耳を傾け傾聴に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への入所の際は事前に情報提供に努めている。併設した施設へ移行した際は、その後の経過を確認したり面会をしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で情報を共有し、これまでの生活歴、趣味、嗜好等を本人、家族から聞き取り自宅での生活に近づけるよう努力している。本人や家族の思いや要望は計画書に反映できるようにしている。本人が得意な事や好きな音楽や趣味等があれば生活に取り入れるようにしている。	発語が難しい方には、目を見て手に触れて優しく言葉がけをして、話されるのを待つ工夫をしている。足浴などしている時、会話が弾み、「ありがとう」や「気持ちいいなあ」の言葉があり職員の励みとなっている。利用者の好きな歌手のDVDを流して一緒に歌を口ずさんだり、踊りが得意な利用者には、浴衣を着て踊りを披露してもらった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々の関わりや会話の中から本人の要望、家族からの聞き取りを含め把握に努めている。入居に至った経緯や生活歴等の知り得た情報は職員間で共有し馴染みの暮らしが継続して送れるように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のペースに合わせたその人の行動パターンや情報を共有し、その人に合った声掛けや支援に努めている。 一人で出来なくても職員と一緒に洗い物や洗濯量等を行う事でやりがいを感じてもらい意欲向上に努めている。できないと決めつけるのではなく出来ることに注目してサポートを意識している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	事前に情報を収集した内容を職員間で共有し、安心して生活が送れるよう介護計画を作成している。本人や家族の希望や要望は計画書に取り入れ個々に応じた計画書の作成を心がけている。	入所後、何もなければ半年でモニタリングして見直しを行い、その後も半年ごとに意見交換している。個別支援を大切に考え、その人にあった計画になるように配慮し作成している。家族からの”楽しく過ごしてほしい”、”趣味などを活かしてほしい”との要望や、医師、担当職員の意見を参考に、計画作成担当者を中心に作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の生活状況を介護記録に記載している。変更事項や申し送り事項はその都度申し送りノートに記載し、全職員が情報を把握し実践に努め、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族からの要望は出来る範囲柔軟な対応に努めている。食事量が少ない際は、好きなパンを買いに買い物へ一緒に出かけたり、外へ気分転換に出掛けたい際は散歩に出かけたりとニーズに合わせて対応を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍ではあるが、近隣との関りや屋外への外出支援を図りながら毎月楽しめるような計画を立てている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を優先し希望者はかかりつけ医に変更している。必要であれば訪問歯科で往診も可能で、適切な治療が受けられるよう支援している。必要時には家族にも同行してもらい付き添いを行ってもらっている。	以前からのかかりつけ医と、協力医とは入所時に選択できるが、ほとんどの方が協力医に転医している。協力医は2人いて、其々月2回、月1回の訪問診療があり、24時間対応してくれる。歯科は、毎週、衛生士が来所、3か月に1回の医師の訪問診療がある。他科は基本職員が付き添いが、かかりつけがある利用者は家族が付き添っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行い体調の把握に努めている。体調の変化がみられる際は職場内の看護職やかかりつけ医の看護職に相談、連携に努め適切な受診や支援が図れるように努めている。皮膚状態や体調の変化がみられる際は記録に残し報告するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した際は、早急な情報提供を行っている。また入院中は病院関係者と連携を図り状態把握に努め、退院後の受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際に延命治療の有無は確認しているが、重度化した場合は経過を踏まえ本人、家族の意向を再度確認している。終末期の対応について主治医や家族と意向を確認し、施設でできる事できない事の十分な説明をし、関係機関と連携を密にし本人にとって最善の方法を協議した。	看取りはしていない。入所時、家族に重度化した場合・終末期についての意向確認はしているが、重度化した場合には、“看取り介護に対する指針”により再度確認している。重度化に対してのケアのマニュアルがあり、職員の精神的負担軽減を図る体制ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に全体会議にて事故発生、緊急時の対応について勉強会を行っている。急変時の心肺蘇生も定期的に勉強会にて訓練している。応急処置の対応マニュアルは、ファイルにし慌てずに対応ができるようにしている。会議にてバイタルチェック方法については職員同士で実践して訓練を行った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中、夜間を想定した避難訓練を行っている。消火器を使用し初期消火の訓練も実施している。運営推進会議等でAEDを設置している旨や災害時の協力はお願いしている。災害時のフローチャートを作成し、施設内の見やすい場所に掲示している。	ハザードマップ、緊急連絡網は事務所にある。年2回利用者参加で、昼夜想定で火災訓練、水害訓練を行っている。災害時は避難場所として、施設の2階に垂直避難する。備蓄は水、衛生品、お粥やおにぎりのレトルト食品を2階にローリングストックしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を尊重した関りや声掛けを心がけている。一人一人の性格やこれまでの暮らしを理解しその方に合った声掛けや対応を行っている。利用者同士でトラブルにならないよう職員が間に入り支援している。	呼称は基本は苗字にさん付け。反応が良い呼び名で、尊厳に注意して呼ぶこともある。排泄失敗時には、さりげなく語り掛け、「衣装を変えませんか」など、言葉掛けを工夫している。排泄時は、必ずドアを閉める様子を気をつけたり、申し送りの際に、本人に分からない様にプライバシーに配慮して行ったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望に寄り添い、自己決定できるように支援している。レクリエーションでは、利用者全員の参加を無理強いはせず、本人様がしたい活動や意向を確認するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間にとらわれず、利用者に合わせた入浴や就寝時間で過ごしてもらっている。「外に行きたい。」「買い物に行きたい。」等の希望があれば希望に沿った対応を図るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい生活が送れるよう本人の希望に沿った身だしなみやおしゃれができるよう配慮している。外に出かける際はどの服を着ようかと一緒に選ぶ事もある。爪にマニキュアを塗っておしゃれを楽しむ方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方は、配膳、下膳、片付け等を一緒に手伝ってもらっている。おやつ作りでは利用者と一緒に準備、作業も行い楽しみながら行うことができている。利用者が食べたい物や好みの物を一緒に考えて作るようにしている。	食事は外注だが、行事食がメニューに組み込まれており、お寿司が好評。利用者の嗜好調査をして、要望のあったお好み焼きを提供した。誕生日にはケーキを手作りしている。毎週日曜日には、どら焼きや、サツマイモ焼き等、手作りおやつがあり、楽しみの一つとなっている。季節の良い時期には、中庭でお茶会を楽しんでいる。	栄養士との連携を深めて、更に工夫されることを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士がたてたバランスの良いメニューとなっている。一人一人に合わせた食事量や嗜好、飲み物の温度にも配慮しながら提供している。水分摂取量が少ない方は本人の好む飲み物を持参してもらっている。その方に応じた食事形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛け、誘導を行っている。自分では不十分な所は介助している。必要な方は定期的に歯科往診にて治療や口腔内清掃を行っている。毎晩義歯の洗浄を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けや誘導を行い、その人のパターンを把握しトイレでの排泄を促している。定期的な排泄ケアの見直し、必要な方は簡易トイレを使用している。 排泄用品の使用頻度も意識しながら排泄ケアの見直しや検討を図っている。	利用者に合わせた声掛けをして、トイレで排泄できるよう誘導し、気持ちよく過ごして頂けるようにしている。排泄用品の使用にも、家族に負担がかからないように配慮している。入居時おむつだった利用者が、薬の調節や言葉がけにより、自立してトイレに行けるようになった。嫌がる人には時間や言葉を変える工夫をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お腹に良い飲食物や好む飲み物を提供したり、歩く機会を作ったり自然排便が促せるように個々に応じた対応を図っている。それでも自然排便が難しい際は医師と相談し内服薬の調整をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調や希望等により曜日や時間を変更して臨機応変に対応している。無理強いはず、その日の入浴が難しい際は曜日や入浴形態を変更をしている。	入浴は週2回提供している。ゆず湯や入浴剤を入れて、気持ちよく入浴できるようにしている。入浴を嫌がる利用者には、時間をずらしたり、職員を変えたりして工夫している。同性介助に対応している。30分位、ゆったり時間をかけ、寛いで入浴して頂けるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを把握し、眠くなるまではホールで一緒に過ごしたりしている。眠れない際はホールで職員と一緒に寄り添って過ごすなど不安なく安心して過ごせるよう配慮している。日中はなるべく活動的に過ごし夜間良眠ができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は飲み込まれるまで確認している。薬の変更事項等があれば連絡ノートに記載し、全職員に情報の共有を図っている。日頃の症状の変化に気づき、日頃から職場内の看護師や介護職員と情報を共有し分からないことは主治医または関係機関に確認するようにしている。 処方箋は、各カルテに綴じすぐに確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人、家族との日頃の会話の中から、本人のしたい事、好きだった事を探り、日々の生活の中で楽しみごとができるよう支援している。自宅で植木に水やりが日課だった方は、現在の生活の中で日課に取り入れられるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	なかなか個々の希望にそった外出支援は出来ないが、季節を感じられる外出支援や散歩に出かけ気分転換や買い物支援ができるようにしている。なるべく本人や家族の思いを聞き、できる範囲支援している。	近隣のA型事業所にある喫茶店や、パン屋に買い物に行き、気分転換が出来ている。施設内の中庭には、桜やもみじの木があり、四季の移り変わりを感じることができる。近隣の紅葉や花見の名所にドライブに行った。洗濯物を外に干してくれる利用者がいて、日課となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金の管理ができる方はいないが、少額のお金を持ってもらい、近くの喫茶店や嗜好品等を買物に行った際には本人から支払いをしてもらうように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は施設の電話や携帯を使い、会話の機会を設けている。姉妹や友人から電話があった際も本人に取り次ぎ会話を楽しまれている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節に応じた壁画や製作を作成し、季節感を取り入れた飾りつけをしている。毎日清掃し、いつでも気持ちよく過ごせるように配慮している。	利用者と一緒に作った季節を感じる作品が、壁面に飾られている。書初めの作品や、節分に向けた鬼の塗り絵が飾られていた。DVDを使ってリハビリ体操をしたり、合唱、脳トレ、ゲームなどをして、日中は、ホールでほとんどの利用者が過ごしている。中庭の草取りや、花壇の水やりを利用者が職員と一緒にしている。お昼寝や洗濯たみをする畳コーナーが、ホール内にある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う利用者同士がテーブルを囲み会話したり、ソファーや畳のコーナーで過ごしたり思い思い自由に過ごしてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物や好みの物を家族様に依頼し、必要に応じて居室内の配置換えを行っている。家族様が持参された写真や置物を飾る等本人様が安心して過ごせるように配慮している。入居後新たに必要物は家族に持参を依頼し、居心地よく過ごせるように支援している。	備え付けはベッド、エアコン、換気扇、洗面所、タンス、机、カーテン、照明。テレビを見て寛いだり、仏壇に毎朝、手をあわせて家族に思いを馳せている利用者がある。職員が作った誕生日カードを飾ったり、家族との写真を壁に飾っている。職員が毎朝清掃し、シーツ交換時には利用者が手伝ってくれる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレを迷うことのない様に目印や掲示をして対応している。自分でできる方は、食器洗いや洗濯たみ、シーツ交換等の出来るところをお手伝いしてもらっている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない			○	4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				